

公社も無電柱化をしたいということで、非常に早い時期から、積水ハウスと協力して、関電やNTTに声掛けをした。しかし、関電は地中化に否定的でなかなか進まなかった。関電へは、上の地位の人と下の人から働きかけ、何度も何度も交渉した。

結局、関電のサイドの方針が決まり、“高压電線は架線方式で、低压電線は地中化”という折衷案が出された。この背景には、「供給電力の変更が難しいので電気需要がある程度確定されている場合でないとは地中化できない。」というネックがあったからである。

この問題に対して、「市街地変更がないところであれば供給電気量はほぼ一定になるので、地中化は実現可能である。」という判断を行い、以下の決定を行った。

(1) 区画の再整備がなければ地中化は可能 → 区画再整備禁止の制度を作った

(2) 安定した電気供給量を生み出すため、積水ハウスが受け持つB1ゾーンではオール電化を実施することを決めた。

最終的に関電がOKを出したので、NTTもOKを出し、地中化が進んだ。

コンペの実施前から関電との交渉を行い、3年後によく戸建住宅地における完全な電線類地中化が実現できたときの喜びは想像以上であった。

今のコモンシティ星田

- ・電柱がないので広い空間が感じられる。
- ・シソの産地→水路でシソ栽培。
- ・2カ月に1度の清掃を行っている。
- ・メイン道路の足元に花を植えている。
- ・協議会の内容の勉強会をしている。
- ・住民の評価も良い。他の地域から来た人に「あなたの街はとてもすばらしいわ!」と言われ、自分の街のすばらしさを再確認した。



以上

大阪で好評を得た出版記念セミナーを、以下により東京でも開催します。

日時: 2010年11月29日(月) 14:00~17:00

場所: 大和ハウス工業株式会社東京支社

東京都千代田区飯田橋三丁目13番1号

内容: 「川越一番街の無電柱化について」 可児 一男氏 (有)可児時計本店

「電線類地中化の実例」(仮題) 松本 浩様 (財)住宅生産振興財団

交流会: 17:30~19:00 会場未定 会費 2,500円

★お問い合わせ、お申し込みは下記までお願いします。

NPO 法人電線のない街づくり支援ネットワーク事務局 井上・根井

Mail: info@NPONPC.org http://nponpc.org Tel: 072-653-5811

「私達」が住む日本の空を、「私達」が美しい空へ変えましょう!

美空~MISORA~

第27号

発行日: 2010年10月22日(金)

発行者: NPO 法人電線のない街づくり支援ネットワーク

理事長 高田 昇

【活動報告】

1. “第3回 異業種交流会”を開催しました。

9月30日、大阪において“第3回 異業種交流会”を開催しました。

今回は「枚方宿のまちづくり」というテーマで、枚方宿の「歴史的な街並の保全、活きている街作りと無電柱化」に取り組みされた(株)サルトコラボレイティヴ代表/都市計画家の加藤寛之氏に、街作りのプロセスや活性化のための市民活動などについて講演を頂き、参加者と活発な質疑応答が交わされました。

2. 大阪府が実施する「大阪府景観まちなみ写真展」に、“無電柱化シミュレーション”写真を提供しました。

10月16日から11月14日の間に、太子町、河内長野、富田林市、枚方宿等を巡回して行われている「大阪府景観まちなみ写真展」に、当NPOがサービスを開始した“無電柱化シミュレーション”写真を提供しました。見学者にNPOの活動とともに、電柱がなくなった街の美しさを理解して頂くことを期待しています。

3. “第5回 実践!美しい街作りセミナー”を開催します。

11月20日(土)、「観光都市 京都のまちの未来を考える」というテーマで、“第5回 実践!美しい街作りセミナー”を京都で開催します。

京都市議員隠塚 功氏に「現在京都の街づくりが抱えている問題点」という講演を頂き、その後に、「京都の未来の街づくりについて考える。」という議題で出席者によるワークショップ(グループ学習)を行い、最後に「京都の街づくりに関する無電柱ネット2010共同宣言」を採択します。街づくりに興味のある学生と、社会人の参加をお待ちしています。

詳細は下記です。

日時: 2010年11月20日(土) 14:00~16:00 (受付 13:30~)

会場: キャンパスプラザ京都 二階 第三会議室

京都市下京区西洞院通塩小路下(JR京都駅ビル駐車場西側) Tel: (075) 353-9111

お問い合わせ・お申し込み先

NPO 法人電線のない街づくり支援ネットワーク事務局 池本・根井・井上

Mail: info@NPONPC.org http://nponpc.org Tel: 072-653-5811

【特集】『電柱のないまちづくり』出版記念セミナー

前号に続き、『電柱のないまちづくり』出版記念セミナーの講演を特集します。

◇◇第三講演「事例研究：花見小路」

隠塚 功氏 京都市会議員／NPO 法人アートテックまちなみ協議会特別顧問

地元と行政の取り組みに専門家 NPO 法人アートテックまちなみ協議会が橋渡し役を務めて実現した、祇園町南側地区（花見小路）のまちづくりについて発表します。

1. 再整備計画の流れ

整備前の花見小路はにぎやかな所で、電線電柱が乱立しており、決して綺麗な景観とは言えなかった。地元住民が、昔ながらの花見小路の雰囲気を残していきたいということで、再整備が進められた。再整備に対する京都市及び地元の流れは以下の経緯です。

京都市	地元
平成7年:「市街地景観整備条例」改訂	平成8年:「祇園南側地区協議会」設立
平成11年:「祇園町南歴史的景観保全修景地区における歴史的景観保全修景計画」決定	平成11年:「祇園町南側地区景観協定」決議 平成13年:「NPO 法人祇園町南側地区まちづくり協議会」設立
平成14年:「祇園町南側地区地区計画」決定	
平成18年:「祇園町南側地区地区計画」変更	平成16年:「祇園町南側地区町式目」制定

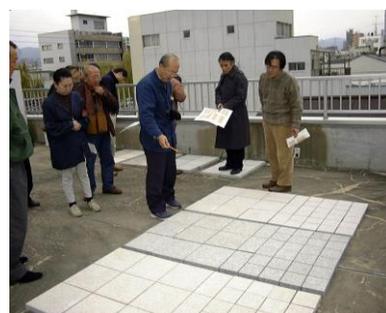
この再整備の特徴は、地元「景観は自分たちで守るもの」という意識があったことである。

すなわち、「市街地景観整備条例」改訂を受けて地元は翌年に「祇園南側地区協議会」を設立、これにより京都市が地元と協議する仕組みを作った。その結果、京都市の調査は順調に進み、また地域要望も受け入れられて「祇園町南歴史的景観保全修景地区における歴史的景観保全修景計画」が決定された。

整備後は、「景観づくりは、行政にいわれてやるものではなく、自分たちでやるものである。」という意識の基、「祇園町南側地区町式目」を制定し、景観の保全に努めている。

2. 再整備デザインの流れ

平成10年:花見小路のデザイン案提示 ↳ 地元拒否 → 地元検討開始
平成11年:NPO 法人アートテックまちなみ協議会へ協力依頼 地元ヒヤリング → イメージパース作成 車道用・歩道用石畳試験貼り 街灯試験点灯
平成12年:地元案完成
平成13年:工事完了



石畳試験貼りの風景

当 NPO ではメールマガジンも配信しており、電線地中化に関するコラム・情報を月2回お楽しみいただけます！ぜひこちらにもご登録ください！
→ <http://www.mag2.com/m/0000266000.html>

NPO 法人アートテックまちなみ協議会は、「地元が主役である。」という考えの基に、地元との意見交換を繰り返し、地元の方々のイメージに沿った地元案を完成させた。

3. 電柱のないまちづくりの意義

「新しいまち」がイメージしやすい

- ・ 共通理解が得やすい
- ・ 地域の賛同が得やすい
- ・ 取り組みへの協力が得やすい



- ・ 「まちづくり」の人間関係が構築できる。
- ・ 「まちづくり」のための負担感が軽くなる。

→ 「自分たちのまち」意識が高まる

⇒ 持続的な「まちづくり活動」の一步！！

電線類地中化は目的ではなく手段である。

地中化を手段にしてこれからも街を盛り上げていきたい。

以上



整備前



整備後

写真は国土交通省 HP より

◇◇第四講演「事例研究：コモンシティ星田」

鈴木 映男氏 元大阪府職員

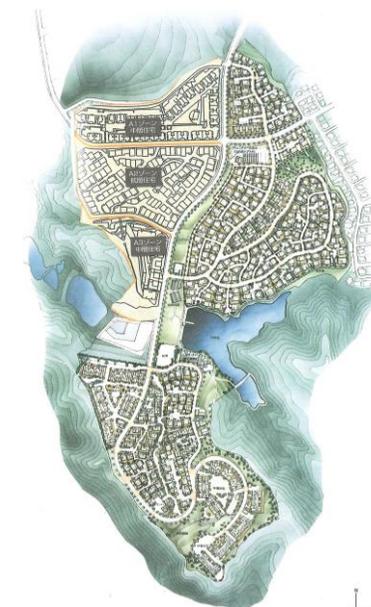
“コモンシティ星田”を事例に、行政の中で、地中化に至ったきっかけを話したい。

地中化を行った頃は大阪府の職員だった。

1987年の国際住居年に併せて、大阪府は、ゴルフ場跡地にコンペによる街づくりを行おうということになった。8万坪弱の土地があったので、公園、幹線道路、調整池を除いた1/3部分の一部を「設計コンペ」、残りの2/3を「事業化コンペ」によって住宅開発が行われた。設計コンペには大阪府住宅供給公社が当選し、事業化コンペには積水ハウスグループが当選した。

このコンペを通して21世紀を先導する市街地づくりを行うことが目標であった。

住宅開発地がゴルフ場跡地だったため、土地は丘陵状をしており、地形に合わせて道路をつくと曲線になった。そのため架線方式だと、電柱の間隔がせまくなり、電柱が乱立することになる。



全体計画図

当NPOのHP(ホームページ)でも、最新情報を詳しく載せていきますので、ぜひこちらへもアクセスしてください！
<http://nponpc.org/top.aspx>

